2026年度 第6回（11月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生の「わたし」（千晴）は、進路希望調査票の第一志望の欄を書けずにいた。ある日の帰り道、去年の職場体験でお世話になった時計店に立ち寄る。

進路希望調査票の提出は、あさってだった。クリアファイルから取り出すたびに、①第一志望の欄の白さが、目に痛かった。前の席の由佳は、配られたその日に「看護科」と書いて出してしまった。迷いのないその字を見たとき、わたしは、自分だけが地図を持たずに歩いているような気がした。

駅前の商店街を抜ける帰り道、「内藤時計店」の看板が目に入った。去年の秋、職場体験で三日間お世話になった店だ。ガラス戸の向こうで、内藤さんが背中を丸めて作業台に向かっている。気がつくと、わたしは戸を押していた。

「おや、千晴ちゃんか。」内藤さんはルーペを額に押し上げて、目を細めた。「ちょうどいい。この子の具合を見てやっているところだ。」作業台の上では、古い置き時計が裏ぶたを外され、小さな歯車をのぞかせていた。

去年の職場体験で、わたしは、分解された部品を大きさの順に布の上へ並べる係をした。ピンセットの先で、米粒ほどのねじをつまみ上げる。息を止めて、そっと置く。②内藤さんに「もう帰る時間だよ」と声をかけられるまで、外が暗くなっていたことにさえ気づかなかった。あのとき、何がそんなに楽しかったのか、自分でもうまく説明できない。

「進路は決まったかい。」内藤さんは、手を止めずに言った。わたしは丸椅子に腰を下ろし、少し迷ってから、調査票のことを話した。由佳のことも話した。話しているうちに、声がだんだん小さくなっていった。

「みんな、なりたいものがちゃんとあるのに、わたしだけ何もないんです。」

内藤さんは、ピンセットを置いた。「わしだって、時計屋になりたくてなったわけじゃないよ。」意外な言葉だった。内藤さんは、時計の話になると子どものように目を輝かせる人だ。生まれたときから時計屋になると決めていたのだと、わたしは勝手に思いこんでいた。

「高校を出て、親戚のこの店を手伝ううちに、気がついたら五十年さ。」内藤さんは、外した歯車を一つ、手のひらに載せてわたしに見せた。「③歯車ってのはな、一つだけ眺めていても、時計がどこへ向かうのかはわからない。けれど、隣の歯車とかみ合って回っているうちに、ちゃんと針は前に進むんだ。」

わたしは、手のひらの上の小さな歯車を見つめた。ふちに刻まれたぎざぎざの一つ一つが、蛍光灯の光を受けて細かく光っている。

「千晴ちゃんは去年、ねじを並べながら、時間を忘れていたろう。」

④わたしは、思わず顔を上げた。あの日のわたしを、内藤さんは見ていたのだ。

「それも、一つの歯車だよ。何になりたいかが先に決まっていなくてもいい。今、夢中になれるものを、一つずつかみ合わせていけばいいんだ。」

店を出ると、商店街の明かりがともり始めていた。わたしは歩きながら、学校説明会でもらった工業高校のパンフレットを思い出した。機械科の実習室の写真に、なぜか長いあいだ目をとめていたことも。

家に帰ると、わたしはクリアファイルから調査票を取り出した。第一志望の欄に、鉛筆でゆっくりと学校名を書く。それが正解かどうかは、まだわからない。⑤それでも、書き終えた欄を見つめていると、胸の奥で、小さな歯車がかちりとかみ合ったような気がした。

（注）ルーペ……細かいものを大きく見るための、小さな拡大鏡。

問1 ①「第一志望の欄の白さが、目に痛かった」とありますが、このときの「わたし」の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア迷わずに志望を書いた由佳と比べ、まだ進みたい道を決められずにいる自分に、あせりと心細さを感じている。

イ第一志望の学校はすでに決めているが、家族に反対されるのではないかと思い、書き出せずにいる。

ウ提出が遅れていることを先生に注意され、早く書かなければならないことに腹を立てている。

エ由佳が看護科を選んだことに納得できず、自分は同じ道を選ぶまいと意地になっている。

問2 ②「内藤さんに『もう帰る時間だよ』と声をかけられるまで、外が暗くなっていたことにさえ気づかなかった」とありますが、このときの「わたし」の様子を、内藤さんは別の言葉で言い表しています。内藤さんが「わたし」の去年の様子について言った言葉を、内藤さんの会話の中から八字で抜き出して書きなさい。（4点）

問3 ③「歯車ってのはな、一つだけ眺めていても、時計がどこへ向かうのかはわからない。けれど、隣の歯車とかみ合って回っているうちに、ちゃんと針は前に進むんだ」とありますが、内藤さんはこの言葉で、「わたし」にどのようなことを伝えようとしていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、夢中、将来の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

「なりたいものが先に決まっていなくても、［　25字～35字　］ということ。」

問4 ④「わたしは、思わず顔を上げた」とありますが、このときの「わたし」の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア作業が遅かったことを内藤さんに見ぬかれていたと知り、恥ずかしさでいっぱいになっている。

イ自分でもうまく説明できなかった去年の夢中な姿を、内藤さんがきちんと見ていてくれたことに驚き、心を動かされている。

ウ内藤さんが時計屋になりたくてなったわけではないと聞き、内藤さんの仕事への思いを疑い始めている。

エ内藤さんに職場体験のことを持ち出され、話をそらされたことに不満を感じている。

問5 ⑤「それでも、書き終えた欄を見つめていると、胸の奥で、小さな歯車がかちりとかみ合ったような気がした」とありますが、このときの「わたし」の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア工業高校に進めば必ず時計職人になれると確信し、将来への不安がすっかり消えている。

イ由佳よりも先に進路を決めることができたので、ようやく由佳に追いつけたと満足している。

ウ選んだ道が正解かどうかはわからないが、今の自分が夢中になれることを手がかりに、一歩をふみ出せたという手ごたえを感じている。

エ内藤さんの店を継ぐことを心に決め、そのための学校を選べたことに安心している。

問6 本文の内容や表現について述べた文として適切なものを、次のア～オの中から二つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア「地図を持たずに歩いているような」というたとえによって、進む方向を決められない「わたし」の心細さが表されている。

イ本文は内藤さんの視点から語られており、「わたし」の心情は内藤さんの推測として描かれている。

ウ「歯車」が、内藤さんの言葉と結末の「わたし」の心情の両方に用いられ、「わたし」の気持ちの変化を印象づけている。

エ商店街の様子を細かく描くことで、町の人々が「わたし」の進路に反対していることを暗示している。

オ会話文を用いず、地の文だけで「わたし」と内藤さんのやりとりを描いている。

2

問1(1) 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

委員会で出た意見を網羅した資料を作る。（読み）

問1(2)（各2点） 最後の判断を、キャプテンに委ねる。（読み）

問1(3)（各2点） 港町は、外国とのボウエキで栄えた。（書き）

問1(4)（各2点） 旅行の間、近所の家に犬をアズける。（書き）

問2(1)・(2) 次の――部のかたかなを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとのア～エの中からそれぞれ一つ選び、その記号を答えなさい。（各2点）

話し合いの結果、全員のゴウイが得られた。

ア運動会でゴウレイをかける。

イゴウカな食事を用意する。

ウ入学試験にゴウカクする。

エ相手の意見をゴウインに押し切る。

問2(2)（2点）机を窓ぎわへイドウする。

ア イダイな発明をたたえる。
イ 家族で地方へイジュウする。
ウ 大会に向けてイヨクを燃やす。
エ 町のイサンを守る。

問3 次の文の――部の動詞と、活用の種類が同じものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

友だちの言葉を信じる。

ア 長くのびた髪を切る。
イ 毎朝六時に起きる。
ウ 部屋の窓を閉める。
エ 放課後に練習する。

問4 次の文の――部A「トマトが」が主語として係っていく述語の文節と、――部B「近所の」が修飾している文節の組み合わせとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

兄が　育てた　トマトが（A）　近所の（B）　店で　売られた。

ア A 育てた　B 店で
イ A 売られた　B 店で
ウ A 育てた　B 売られた
エ A 売られた　B 売られた

問5「登山」と同じ構成（組み立て）の熟語を、次のア～オの中から二つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア 読書
イ 温暖
ウ 帰国
エ 雷鳴
オ 深海

問6 次のア～エの俳句の中から、季節が冬であるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア 荒海や佐渡に横たふ天の川　松尾芭蕉
イ 五月雨をあつめて早し最上川　松尾芭蕉
ウ 朝顔に釣瓶とられてもらひ水　加賀千代女
エ 大根引き大根で道を教へけり　小林一茶

問7⑴ 図書委員会では、地域のボランティアの方をお招きする「昼休みの読み聞かせ会」について話し合っています。次の【話し合いの様子】を読み、あとの⑴・⑵に答えなさい。

【話し合いの様子】

委員長「来月の読み聞かせ会について、決まっていることを確認します。高橋さん、お願いします。」

高橋「はい。当日は、ボランティアの村井さんが、昼休みに図書室へ参るそうです。絵本を三冊読んでくださる予定です。」

森「対象は一年生だけですか。それとも、全校に呼びかけますか。」

委員長「昨年は一年生だけでしたが、ほかの学年からも参加したいという声がありました。」

森「それなら、ポスターに『どの学年も参加できます』と書き加えてはどうでしょうか。」

高橋「いいですね。参加する人数が増えるかもしれないことを、村井さんにもお伝えしておきます。」

⑴ 【話し合いの様子】の――部「参る」は、村井さんへの敬意を表す言葉として適切ではありません。適切な言葉に直したものとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

ア伺う
イいらっしゃる
ウ参られる
エお伺いになる

問7⑵ ⑵ この話し合いで、森さんはどのような役割を果たしていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

ア高橋さんの報告の誤りを指摘し、敬語の使い方を正している。
イ会の対象についての疑問を出し、委員長の説明を受けて、ポスターの書き方について具体的な案を示している。
ウ昨年の読み聞かせ会の反省点を一つずつ挙げ、会の中止を提案している。
エ話し合いの内容をまとめ、決まったことを全員に確認している。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

近所の人から、畑でとれた野菜をもらったとする。多くの人は、ありがたいと思うと同時に、「何かお返しをしなければ」と考えるのではないだろうか。そして、お返しの品を用意するまで、どこか落ち着かない気持ちで過ごすことになる。

①この「お返しをしなければ」という気持ちは、考えてみると不思議なものである。もらった野菜の値段を調べて、同じ額のお金をすぐに手渡せば、貸し借りはその場で消える。しかし、そのようなことをする人はまずいない。もしそうすれば、相手はかえって気を悪くするだろう。

店で品物を買うときのことを考えてみよう。代金を払って品物を受け取れば、売り手と買い手の関係はそこで終わる。翌日に同じ店へ行っても、前の日の買い物のことを気にする必要はない。お金によるやりとりは、その場で貸し借りをなくし、関係を一回ごとに区切ってしまうからこそ、見知らぬ者どうしでも気軽に行えるのである。

これに対して、贈り物のやりとりは、わざと貸し借りを残しておく営みだといえる。野菜をもらった人は、すぐに同じ値打ちのものを返したりはしない。しばらくして、旅先で買った菓子や、親戚から届いた果物を「少しですが」と持っていく。すると今度は、相手のほうに「もらった」という気持ちが残る。②こうして、どちらかが少しだけ借りている状態が、行ったり来たりしながら続いていく。

日本には、「おすそわけ」という言葉がある。もらい物や作りすぎた料理を、周りの人に少しずつ分けることである。また、かつては、料理を入れて届けてもらった器を返すとき、空のままではなく、半紙や小さな菓子などを入れて返す習わしもあった。いずれも、品物そのものの値打ちより、③やりとりが途切れないことのほうに重きが置かれている。

もちろん、お返しの習慣には、わずらわしい面もある。何を返せばよいかと悩んだり、相手に負担をかけたくないと遠慮したりすることもあるだろう。近ごろは近所づきあいそのものが少なくなり、こうしたやりとりを経験したことのない人も増えている。

しかし、④すべてのやりとりをその場で清算してしまう社会は、便利である一方で、どこか心細い。困ったときに「お互いさま」と言って手を差しのべ合える関係は、小さな貸し借りの積み重ねの中で育ってきたものだからである。災害が起きたとき、ふだんから顔を合わせていた近所の人どうしが助け合ったという話をよく耳にするのも、そのことと無関係ではないだろう。

お返しをしなければと思うとき、わたしたちは、品物ではなく、相手とのつながりを受け取っているのかもしれない。贈り物の文化は、目に見えない「借り」を通して、人と人とを結びつけるしくみなのである。

問1 ①「この『お返しをしなければ』という気持ちは、考えてみると不思議なものである」とありますが、筆者がこのように述べるのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア お返しをすると相手に負担をかけてしまうのに、多くの人がお返しをやめようとしないから。

イ 貸し借りをなくしたいのなら、同じ額のお金をすぐに渡せば済むはずなのに、人はそうはせず、そうすればかえって相手が気を悪くするから。

ウ 野菜の値段は簡単に調べられるのに、多くの人がわざわざ値段の高い品物を選んでお返しをするから。

エ お金でお返しをするほうが相手は喜ぶのに、多くの人が品物でお返しをしようとするから。

問2 次の文は、お金によるやりとりの特徴についてまとめたものです。空欄にあてはまる言葉を、本文中から十五字で抜き出して書きなさい。（4点）

「お金によるやりとりは、その場で貸し借りをなくし、［　　十五字　　］ので、見知らぬ者どうしでも気軽に行える。」

問3 ②「こうして、どちらかが少しだけ借りている状態が、行ったり来たりしながら続いていく」とありますが、筆者は、贈り物のやりとりをどのような営みだと考えていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、貸し借り、つながりの二つの言葉を使って、三十字以上、四十字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

「贈り物のやりとりは、［　30字～40字　］営みである。」

問4 ③「やりとりが途切れないことのほうに重きが置かれている」とありますが、そのことを示す例として筆者が挙げている習わしの説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア届けてもらった料理の値段を調べて、それと同じ値打ちの品物を器に入れて返すこと。

イ器を空のまま返すと失礼になるので、必ず高価な品物を入れて返すこと。

ウ器を返すときに小さな品物を入れることで、今度は相手のほうに「もらった」という気持ちが残り、行き来が続くようにすること。

エ器を返すときに品物を入れることで、相手とのやりとりをその場で終わらせること。

問5 「もちろん、お返しの習慣には、わずらわしい面もある。」で始まる段落の働きを説明したものとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

アそれまで述べてきた考えを取り下げ、お返しの習慣はなくすべきだという新しい主張を示している。

イお返しの習慣のわずらわしさや近所づきあいが減っている現状にもふれたうえで、次の段落で改めて筆者の考えを示すための前置きになっている。

ウお金によるやりとりの便利さを具体的な数字で示し、前の段落の内容を補っている。

エ「おすそわけ」という言葉の由来を説明し、話題を言葉の歴史へと移している。

問6 本文の内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア贈り物のやりとりはわずらわしいので、すべてのやりとりをお金で清算する社会に変えていくべきである。

イお金によるやりとりは人と人との関係をこわしてしまうので、店での買い物はできるだけ減らすべきである。

ウ小さな貸し借りが行き来する贈り物のやりとりは、困ったときに「お互いさま」と助け合える関係を育て、人と人とを結びつけてきた。

エ災害のときに助け合えるかどうかは、どれだけ高価な贈り物をしてきたかによって決まる。

4

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（16点）

ある川のほとりに、蟻遊ぶことありけり。にはかに水かさ増さりきて、かの蟻を誘ひ流る。浮きぬ沈みぬするところに、鳩、梢よりこれをア見て、「あはれなるありさまかな。」と、梢をちと食ひ切つて、川の中にイ落としければ、蟻これに乗つて渚に上がりぬ。

かかりけるところに、ある人、竿の先に鳥もちを付けて、かの鳩をささんとす。蟻心に①思ふやう、「ただ今の恩を送らんものを。」と思ひ、かの人の足にしつかとウ食ひつきければ、②おびえあがつて、竿をかしこに投げ捨てけり。そのもの色や知る。しかるに、鳩これをエ悟りて、いづくともなく飛び去りぬ。

そのごとく、人の恩を受けたらん者は、いかさまにもその報ひをせばやと思ふ心ざしを持つべし。

（『伊曽保物語』による）

（注）誘ひ流る……さらって流す。梢（こずえ）……木の枝の先。渚（なぎさ）……水ぎわ。鳥もち……小鳥や虫をとらえるために使う、ねばりけの強いもの。ささんとす……（竿の先で）突いてとらえようとする。恩を送らん……恩に報いよう。かしこ……あちら。そのもの色や知る……（なぜそうなったのか）わけがわかっただろうか、いや、わからなかっただろう。いかさまにも……どうにかして。報ひをせばや……恩返しをしたい。

問1 ①「思ふやう」を、現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。（4点）

問2 ②「おびえあがつて」とありますが、おびえあがったのはだれですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 蟻
イ 鳩
ウ ある人
エ 筆者

問3 ――部ア～エの中から、主語が他と異なるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 見て
イ 落としければ
ウ 食ひつきければ
エ 悟りて

問4 本文の最後の一文で述べられている教えを次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（4点）

「人から恩を受けた者は、［　10字～20字　］という気持ちを持つべきだということ。」

（以上で問題は終わりです。）